

みんなの夢をクリエート サンサンさわやか 文協田原



# たはら文化

vol.  
**146**  
2025  
(令和7年) 1.20

● 田原市文化協会ホームページ <https://taharabunka.com>



未来に残そう  
田原市の美しい風景

Photo by 海老沢 瞳

# 田原市文化祭 渥美会場

菊薫る十月二、三日の両日、渥美文化会館を主会場とした田原市文化祭が盛大に開催されました。天候にも恵まれ大勢の方の参加を頂きました。舞台を飾ってくれた渥美混声合唱団、箏曲渥美リラの会、アロハ・レイアナ・ポリネシアンズ、剣詩舞・渥美、バンドやろうかいなど団体での皆さんや、また、独り舞台で熱唱を披露して下さったのは、岬会、渥美カラオケ同好会、渥美歌謡クラブ十八番会、☆ゴールデン☆スター☆のカラオケチームの皆さんと、今回は一般の方も数名参加され、中には外国の方もみえてむつかしい日本語の演歌を言葉丁寧に発して歌う姿に大きな拍手が送られていました。

日頃無縁と思っておりました文化に触れ、改めて文化の重要性を再認識したと共に、私達の生活、それぞれが文化であり、余った時間の有効活用が短い人生の中で充実感や達成感が味わえるという事を痛感しました。

今年度は夏の異常気象の影響で菊花の出品数が少なかった様に思われましたが、他の展示会場では、書道、華道、絵画等があり、特に子供達の俳句作品が素晴らしく感じました。これからも日々研鑽し、人生百歳を目指し、充実した余生を送るよう頑張ろうと再認識した一日でした。

(細田 敏彦)



「渥美ならではのコラボ」お茶席の花入や抹茶茶碗に渥美窯の作品が使われ、陶芸部員の顔も綻び話が弾みます。  
「二期会」陶芸も菊も絵画も慈しんで育てた作品、慈しみの眼差しはまわりにも。

「みんなで創る」華道に茶道、俳句に短歌、写真も「引き算の美」追求。その親近感から展示のコツ等アドバイス、何かと心にかけてくれます。「世代間コラボ」菊友会や絵画で活躍の若人は希望の星 俳句も泉小 学校、俳句会のある高松小学校が参加。子ども書道の他に書道と造形 子ども体験教室も、将来を担う子ども達の作品も楽しみです。麻布に描くダキシメルオモイ、和布はじめ華やかで細かな手作り作品も増えました。

押し寄せる過疎と高齢化の波、渥美に文化の灯を消すまいと微力ながら奮闘中です。  
(花井 志げ子)





「十一月三日」前日の雨もあがり気持ちの良い文化祭の一日となりました。

当日は、箏曲、舞踊、クラシックバレエ、フラダンス、詩吟、大正琴、剣・詩舞、カラオケ、堅琴、オカリナ、マジック等で、皆さん、日頃のお稽古の成果を魅せてくれました。

皆さんそれぞれ衣装を身につけ短い時間内でスポットライトを浴び熱演する姿はとても感動しました。

子供から高齢者まで幅広く参加出来るのが文化祭のとてもいいところですね。

特に高齢者になると、子供達のパワーをもらい自然と顔がほころびます。

私の生徒さんたちは、練習の時は、真剣に話しを、聞き覚えてくれます。終われば雑談話の中にはとけこめない時もありますが、聞いているだけでも楽しいものです。いくつになっても、元気でそれぞれの趣味に頑張りますよ。

次は、春の文協まつりに向かってお稽古に励みたいと思っています。

(岩崎 尚子)

# 田原市文化祭 田原会場



文化会館回廊の児童生徒のフラワーアレンジメントなどの作品は心を和ませてくれる。

今年の生け花展は多目的ホール前の展示となり明るい陽ざしの中でお花の美しさを鑑賞する事が出来た。

多目的ホールでは、書、絵画、写真、俳句、短歌、木工、つまみ細工などの作品を展示。中でも工芸の組子障子、干支飾りの藁で作った大蛇の緻密さに見蕩れてしまう。アトリエには多くの陶芸作品が展示されている。音楽練習室の手芸作品は楽しさが一杯。

写真展には今年の話題のアトリス彗星を撮った一枚も。

アトリウムは盆裁、体育館ロビーのさつき展は見事な枝振りの鉢物が重厚な雰囲気を出していた。

(高橋 いすゞ)

# 研修視察

コロナが始まってからは、旅行は控えていましたが、今年初めての役員を頂だき十月二十日の一日研修視察に参加する事にしました。先週末であんなに暖かったのに急に寒くなり防寒着を用意し持つて行く事にしました。出だしから、時間が少し遅れ、又、豊川インターを乗り始めると美合で交通事故が発生。渋滞に巻き込まれないよう音羽でおりて下道を通り新東名のインター東岡崎で乗るとの事でしたが、どの車も考える事は緒で、インターの入口までは、大渋滞でしたが、なんとか予定の昼には着きました。

昼食は、四角い器に仕切りが沢山あって色々な種類の料理がカラフルな器に盛りられ、目で見ても楽しみ舌で味わい、とても上品な料理でした。

それから徳川美術館や徳川園を見学。この所の朝晩の冷え込みはあるものの紅葉を楽しむ程ではなく、少し始まったばかり徳川園の庭は、とても広く手入れが大変だろうなと思いつながら散策をして来ました。それから今度はノリタケの森へバスで移動して陶磁器を作る作業から製品になるまでの工程を見学しました。

すばらしい作品の数々を見て目の保養になりました。隣のイオンモールで珈琲を飲むには時間が無いのでテイクアウトで注文してバスを待ちました。スケジュールの順序は多少違いましたが、今日一日皆様の親睦も深まったと思います。

(真野 かず子)



## 東三河部芸能大会に参加して

・恵勢会 伊藤 長代

秋も深まり、木々が色づき始める季節となりました。いかがお過ごしでしょうか。

さて、七月七日新城市文化会館において東三河部芸能大会が盛大に開催されました。

私たち恵勢会は「花二凛く市丸模様」「長唄助六桜」の二演目で出演させていただきました。

新城の地は三十八度と最高の暑さでしたが文化協会の皆さまのお心配りのおかげで無事終えることができました。

舞台はとても踊りやすく、また、楽屋も快適でした。

お世話いただいた皆さま、本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。



# 俳句と短歌で巡る、田原市内の名所⑨

初立池は豊川用水の最終調整池である。遊歩道も整備され、春は桜、初夏には花菖蒲や紫陽花が映え、初冬には水鳥が飛来し羽を休める。季節を問わず自然豊かな環境にある。

十月十日渥美俳句会十名で吟行した。

差し羽渡る初立池を目印に  
村の田の沈むを知るや浮き寝鴨  
秋麗男は一人ウオーキング  
棧橋にひとり分なる秋の風  
空澄みて鳶悠々と山を背に

郁夫 克代 美代子 鬼笑  
さとり

秋の草花に眼を向けながら池を巡る

一叢の芒揺るるや水の音  
初立に南蛮煙管の隠れ咲き  
初立池ひとひらやせしこぼれ萩  
さゆらぎや秋蝶花を離れをり  
初立の丘に荻萱攫ふ風  
初立のみなおおおと草清水

元子 郁夫 へり子 ひろ子 明子 幸代



野を歩くあのころ草を探しつつ  
スキップで四阿抜ける秋の風

えり子 美代子

西の斜面、国の史跡東大寺瓦窯跡へ

瓦窯跡初立ダムの虫時雨  
千年の秋澄むばかり瓦窯跡

惠美子 志げ子

更に総合運動場へも歩を進める

あかね空稲孫田に立つ鷺一羽  
秋耕や廻る影濃き大風車

鬼笑 志げ子

血焼古窯館では赤土に埋もれた土器が渥美の遠い昔を物語る

血焼きの断崖赤し秋入り日  
赤土の血焼き古窯天高し  
鶉花白し山の日暮るるまで  
秋の日の転げる如く山へ落つ

せとり 明子 志げ子 ひろ子

(渥美俳句会一同)



十月の三連休の初日。見事な秋晴れとなり、素敵な行楽日和になったので、久し振りに初立池に出かけてみた。

桜の季節、花菖蒲の咲く頃そして鴨達に会いに…。折々出かけていたが、ここ暫くごぶさたしていた。

空は青く、水面は細波さいなみにゆれ、空気は澄んで心地よい。穂芒が揺れ、今年は遅れ気味だった彼岸花もまだ少し残っていて、移りゆく季節を思わせる。よく一緒に訪れた人達が亡くなった淋しさを粉らわすかのよう、萩の花が風に揺れていた。

(彦坂 靖子)

四阿に語りひ長く過したる友を失い初立に独り  
穂芒と彼岸花とに彩られ初立池に季節は映る  
片時も絶えぬ細波現世のいとなみなりと心を立てる

彦坂 靖子

## 高橋 明德

昨年八月より故郷の田原市に戻り、リタイア生活に入りました。そのタイミングで近所にある旧知の渥美窯よりお誘いをいただき陶芸を始めました。

陶芸と言うと、一般的には作陶、釉薬掛け中心の作品作りに限定されることが多い中、こちらの窯では、粘土づくり、釉薬づくり、薪作り、素焼き、本焼き、窯の管理といった作業の担い手も兼ねており単に作るだけではないことにも魅力を感じています。

肝心の作品作りの方は始めて二年になりますが、まだまだ超初心者レベルで遅々とした歩みですが、手でこねて形ができてゆくことは、たとえ思い通りにできなくとも掛け値なしに面白いと感じています。

また色々な釉薬のイメージを想像しながら掛けていますが、焼き上がりは想像外のものばかりでこちらは火の神様の思し召しに「喜憂」といったところです。

まだまだ腕を上げる余地が広大にあることを希望の糧として、この土との戯れを続けて行きたいと思っています。



# 陶芸



## 清田 直子

昔から大の食器好きで、気に入った物を買集め、気づけば「こんなにはらないよね」というほど…。

使う器ひとつで料理がワンランク上のごちそうになり、食卓が華やかになります。そんな料理に合う器を自分で作りたいと思ったのが陶芸を始めたきっかけでした。

陶芸は、先ず作るものを決め、粘土を選び、粘土を練り、形を作ります。それを素焼きし、釉薬をかけ、本焼きをします。見簡単なように思えますが、粘土作り、薪の準備、八時間ほどの素焼き、三十時間を超える本焼き等大変な作業がかかれています。

でも、その大変さを打ち消す事も多くあります。轆轤に向き合い雑念を挟まず集中している時間、早朝の静けさの中で窯焚きの無事を祈る時間、窯出しの時の心が躍る時間、どれも陶芸を始めていなければ感じる事ができない時間でした。

渥美窯という歴史ある穴窯と炎の力を借りて、私だけの器を作り、料理を盛る。  
「やっぱり、この器が似合うな」と、自己満足する…

# が好

## 清田 大治

陶芸家江崎二生氏に会って五十七年。その抹茶茶碗に憧れて、小学校二年生の夏休みの作品を作りました。五歳上の姉に手伝ってもらい牛乳瓶に石膏を塗り付け、緑の絵の具を垂らして松灰釉を真似ました。

定年退職して少し時間が持てるようになった二年前に夫婦で陶芸を始めました。憧れは小学生の時に江崎先生から頂いた抹茶茶碗。轆轤の前に座ってひたすら粘土との格闘。

わずか二年では真つ直ぐ上に粘土を引くことができず、歪んだ器ばかりになります。

轆轤の前に座った時、いろいろなことを考えてしまい、失敗ばかりです。自分の集中力のなさに頭が痛くなります。たまに上手に作品ができたとき、あの満足感が癖になります。ただ、焼成によつては作品の良しあしに関わらず良い作品があらわれます。器が歪んでも薪の炎のおかげで自分の力量以上のものにしてくれます。本焼き三十六時間から十日後の窯出しの時の緊張感は例えようもないものです。残りの人生でどれだけこの感覚を味わえるかが楽しみです。



# き



# 踊

# り

# が好

# ま

# !



## 山下 静代

踊りとの出会いは幼少期。実家は芸奴さんの出入りのある料理屋でした。定休日はおろか家族との団らんや会話もなく、誰もが忙しく立ち働いていました。そんな中、想い出すのは当時の調理場やお座敷のにぎわい。そして着物の姿の芸者衆です。現在のように舞台や照明、オーディオはありません。天井は低く妙に明るい電球の下、広間の下手に屏風をしつらえ、その脇で地方さんの歌と三味線だけで踊るのです。興に乗れば小太鼓も加わり、それはまるで別世界でした。私は控えの間のふすまを少し開け、ちょこんと座りいつまでも見入っていたものです。それが踊る側になったのは地域での盆踊り。田原祭りの道ばやし。青年時代の舞踊コンテスト等を経て葵会とのご縁につながるのでした。

日常様々な制約があり時間に拘束され心身共にきつい時もあるけど踊りに救われる事も度々ありました。「八十八の米寿まで踊れるよう毎日祈っています」と外出先で突然亡くなってしまった母の願いに少しでも近づけるよう暮らしていきたいのです。

私が左門流で踊りを始めて早いもので四十三年が過ぎました。乳飲み子をかかえ仕事と家事の多忙の中で週一回のお稽古が一杯でした。それでも、心底踊りが好きだったこと、何より理解ある家族の協力のお陰で今日まで続けていくことができました。

## 伊藤 長代

名古屋金山の日本特殊陶業市民会館、国立劇場、豊橋穂の国劇場等、大きな舞台にも数多く出演させていただきました。今年十二月二日、穂の国劇場での邦楽大会、来年十月の東京渋谷セルリアンタワー能楽堂での舞台も予定されています。今、稽古の真最中です。決して楽しいばかりの稽古ではありませんが舞台を終えた後の達成感は何ものにも代え難いものがあります。「次は何を踊らせてもらえるのかな」と考えている自分がいることに気づかされます。

応援していただいている皆さまに感謝し、これからも楽しく踊り、精進して参ります。



## 奥 千恵子

私が踊りを始めたのは、伯母に勧められたからです。子供が小さい頃、地域の盆踊りでは、途中で帰ってしまう、最後まで、踊っていたかった私です。

踊りの会の教室では、十人以上の方がいて、三列に並んで、何曲かを習い、自分の曲が決まると、その曲を中心に習い、発表会に出ました。

そして平成三十年功労賞を戴き益々頑張るって行こうと、励みになりました。

そのうち仲間も高齢になったりして二人二人とやめられ、教室は四人になりましたが、皆さんと楽しく習い協力しあって、長くやってこられました。

現在は、二人になりましたが二人で仲良く話をしたり習ったりお互いに励まし合ったりしてお稽古をしています。今年の文化祭芸能発表会も終わりました。

また、新しい曲を習い始め、次の発表会へ向けて、お稽古して行きます。

そして楽しい時間を過ごしたいと思っています。興味のある方は、一度見学にいらっしやいませんか。



# 市民茶会

秋の市民茶会が十月二日池ノ原会館において開催され、席主を裏千家渡邊宗澄社中が担当しました。

床の軸は「長楽萬年歡」。今年百歳を迎えられた裏千家鵬雲斎大宗匠の筆。厳しい生活環境の中で、今の幸せな暮らしや楽しみ(茶道)が人々と共に永く続くことはこの上もない歓びと席で語りました。

花は白佐助と赤い照葉のテイカカズラ。主菓子練り切りで、銘は「紅葉狩」。晩秋の味わいです。

初めてお点前をした社中もいましたが、心を込めて一服のお茶を点て、お運びは笑顔で丁寧に努めました。

茶会が終わって「お茶がおいしかった。」「楽しい席だった。」との声を聴き、とてもうれしく思いました。

小雨の降る中でしたが、多くのお客様にお越しいただき、盛会のうちに終了することができました。ありがとうございました。

当日券が少なかつたため席に入れない方もあり、この場を借りてお詫びいたします。  
(渡邊 澄子)



## 東三河写真倶楽部・成章高校写真部との 合同写真展開催!

今回で五回目となる合同写真展が、十月十九日(火)〜十月二十四日(日)まで田原文化会館多目的ホールで開催されました。東三河写真倶楽部は三十代から八十代迄の、初心者からベテランまでが在籍し、毎月一回写真教室を開催し勉強しています。会員の中には、各写真コンテストで入賞されている者や、写真を始めたばかりの初心者もいます。写真展は二年間の勉強の成果を多くの方に見ていただき、そして、お互いの写真を見て色々と勉強する場でもあります。

成章高校写真部との写真展は、世代を超えて写真を楽しむ交流の場でもあります。

特に、高校生の発想は大人では気付かない被写体等があり楽しい作品がいっぱいです。

高校生は二点、東三河写真倶楽部は一人四点から六点を展示、全部で百三十三点を展示しました。

期間中は、多くの方のご来場をいただき、楽しい会話が弾みました。  
(永井)



成章高校写真部



記念撮影



# 文化協会加盟団体紹介

## プアナナラ田原

代表 古田 知恵子

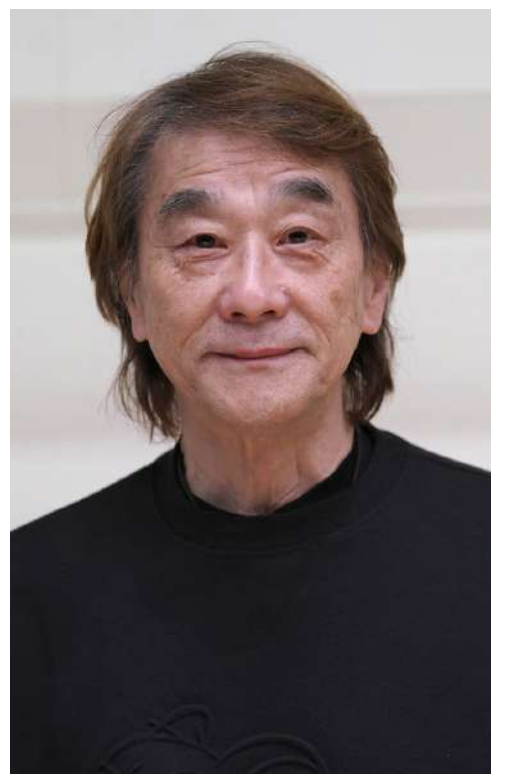
プアナナラ田原は、令和六年の夏に田原文化協会に加盟したばかりのフラダンスグループで、会員を募集中です。代表の古田知恵子さんは田原市生まれ、田原市育ちで、フラダンスにかける熱意は素晴らしいものがあります。定期的にハワイの先生からレッスンを受け、フラダンスのブラッシュアップに余念がありません。フラダンスのルーツだと言われているタヒチアンダンスも習得しています。

古田さんがフラに出会ったのは、平成十五年頃、何でもやってみたい性格で、ジャズダンス、バレエもしながらフラダンスも始め、すぐにフラに熱中し将来フラ講師になることを志しました。フラにめぐりあ

わせてくれた友人や恩師には心から感謝しています。平成二十七年頃にはインストラクター認定を受け、地元の施設で子供達にフラを教え始めました。市民館祭りや敬老会などで踊りを披露し、平成三十年にワールドサーフィンゲームスのステージ、令和四年には伊良湖温泉交流サミットのステージにも出演しました。マルシェなどのイベントにも参加しています。

その後、不本意にも家族の介護のために、二年間フラダンスを教えることから離れ、苦しい期間を過ごしていました。女性はライフイベントのたびに、自分の生活、キャリアや時間を犠牲にしなければならないことがあることに身をもつて学びました。自分の辛い経験から今後は日々忙しい生活を送る女性に気軽にフラを始められ、続けやすい、楽しく居心地の良い講座を提供したいと願い、今年度から活動を再開させています。

大人向けのフラダンス講座だけでなく、令和六年十一月にフラダンス体験会を市内三か所で開催しました。これを機に多くの子供たちを育て、春の文協まつりのステージでフラダンサーデビューを目指しています。(太田 健)



## ☆ゴールデン☆スター☆ 代表 野中 章次

☆ゴールデン☆スター☆は、令和五年に田原文化協会に加盟したばかりのカラオケの会です。会員は六十代、七十代を中心に十人程です。活動は、月二回程のペースで市内外のカラオケ喫茶に集まって各自の得意な歌を歌って楽しんでます。時には、代表の野中さんからの歌唱指導もあります。大きなイベントとしては、年に回のカラオケ大会と歌謡祭を田原市内の文化会館で開催しています。春の文協まつりや秋の文化祭にも出演しています。野中さんは、文化会館の舞台管理の仕事がない時に出演しています。

この会の結成のきっかけは、野中さん夫妻が、サウンドプロ KANPEIとして田原文化会館の舞台PAの活動を始めたことにあります。この二人は作詞作曲家で、関西では、カラオケの全国大会の審査員を行っていた音楽家です。(社)日本音楽著作権協会会員で、楽曲は、DAMやJOY SOUNDで歌うことができます。野中さんは、高齢化でカラオケをやめていく人達をみてると寂しくなり、音楽は健康に良く、認知症予防にもなるので、カラオケの会を結成しました。

本年六月に開催をする☆ゴールデン☆スター☆カラオケ大会&歌謡祭☆で三回目となるので、年内もしくは年明けには、今までの入賞者の中からグランプリを決め、賞金と代表の作った曲が提供されます。また、田原市在住の外国人の代表に交流として参加費無料で出演できるように考えているそうです。(太田 健)



## バンドやろうかい

「音」を「楽しむ」ことをテーマに、この部会を発足しました。

楽器が弾けるけれど、練習する場所や発表する場所が無い。何も演奏することは出来ないけれど、音楽が好き。そんな方たちが集まれる場所になれたらと、思っています。

そして、部会の枠を越えて様々な部会の方たちとのコラボなど、横のつながりの架け橋になれば嬉しいです。演奏するだけが音楽じゃない。これから、色々なことに挑戦していきたいです。

(渡會 久美子)

約半世紀前となる。高校年生となった私がお小遣いを貯め購入したのが「SUZUKI」のギターと赤いタータンチェックのギターケース。買ったのは良いのだがチューニングもままならず、その場で見かねたお店の方が音を合わせてくれた。

一番最初に何とか弾けたのが、「禁じられた遊び」。友達が兄にギターを習い、そして私へと伝えてくれて少しずつレパートリーも増え、当時フォークソングと言われた色々な曲を楽しんだ。

忘れかけていた我青春のニコマを思い出させてくれたのが「ぼんどやろうかい」の文化祭でのステージだった。彼の作詞の「キンモクセイ」を私なりの色んな解釈をして聴き、やさしく投げかけるように歌うその声に包まれた。また透き通るような声で歌った彼女、その胸の中には彼女の大切な時間を共に泣いたり確かめ合ったりした彼が、彼女が居たのだなと…。二人のステージが温かくやさしく、そして彼の絶妙なトークが楽しく素敵な舞台を作ってくれた。

天晴れーぼんどやろうかい!!

(渡會 健美)

## 小径俳句会

令和五年に田原市文化協会に入会された小径俳句会をお訪ね致しました。

九名の会員が投句の五句を持ち寄り無記名で二句一句をランダムに清記用紙に記入。それをコピーして句会は始まりました。

先程までの明るいお喋りとは打って違って真剣な静寂。作品を吟味し各自「良し」と思う十句を選びます。

この日、最高の五名の人選ばれた二句「辞書を入れ背負ふ靴や秋暑し」 樺山伸次 現在も資格試験に向けて勉強されているとのこと。「秋暑し」の季語の使い方がいいです。と、ご指導の山田哲夫先生の評。

私が心を動かされた一句は、「秋彼岸かの海に父散りたるも」 汐香(俳号)お母様のお腹のなかにいる一九四四年九月二十四日にフィリピン沖でお父様は戦死されたそうです。

山田先生は最後の「も」二文字に生きてこられた日々の機微が込められていてお話されました。

お互いの二句を味わい深め、そして楽しく前へ。和やかななかにも一七文字に込める皆様の想いを感じました。ご興味のある方は是非ご見学を。毎月第三日曜日。午後二時半。田原福祉センター相談室 (太田 直子)



## 田原俳句教室

路地深く差し入る京の冬日かな	那津 七津
日の落ちて稜線にある秋意かな	大竹 宏一
濃茶練る師の横顔や寒椿	中村すみれ
山茶花の息づく花の香りかな	三浦 和子
とろろ汁八人家族でありし日の	別所 弘子
秋日和からくり操る氏子の手	亀田 みは
窓開けて雪の白さを愛でにけり	遠藤えい子
捨てられず工夫再生日脚伸ぶ	腰原 和
相嫁の御慶を交はす厨かな	荒木ヤチ子
芽出度しと冬芽のごとき年願ふ	鈴木 京子
冬銀河恋にあらずや片思ひ	天形 京子
待宵の海にうつすら浮く半島	大久保文夫
をちこちに冬芽きはやか雨雫	横田 直之
新刊の書籍ほのかに檸檬の香	山下 貴司
七種のはこべに白き花一つ	いすゞ

## いづみ短歌会

曾孫の七五三参りの老津神社いちやう葉拾ひて記念の押し葉	伊坂八千代
「あみだくじ」引くかの如き吾が人生終わり良ければ全て良しとす	太田 恵子
午後の陽を受けて輝くにこ淵に出逢へる幸や神秘のブルー	河合 京子
黒土を集め詰め込む球児等の涙と汗の光る横顔	木村 冴子
お昼前キャベツ箱積むトラックはどれも満載市場に向ふ	斉藤 昌子
我が墓の後ろは古き小さき墓誰も参らず一緒に水を	鈴木かく子
亡き夫の植ゑしみかんは咲きはこり香り漂ふ五月の庭に	高瀬ツル子
八人の逝きし人等に黙禱し老人会の姿を消しぬ	田中奈生美
庭に咲く色とりどりの御衣花祭りちかしと季を忘れず	中川 公子
庭に咲くブーゲンビリアの一枝を眠る妹に姪は添へやる	花井 立子
孫の土産ガラスのシーサー沖繩の海思はずる晴れやかな青	彦坂 靖子
太公孫樹業者に依頼し伐採す真夏の木陰・银杏思ふ	福井 礼子
古希過ぎてあつという間に喜寿迎ふ時計の針は止まるを知らず	山本 信子

# 頑・張・る・子・供・達

今回は、今年三月に卒業する田原中学校家庭部で三年間にわたり茶道を高め合った七人です。どの生徒も茶道を通して礼儀や思いやり、感謝の心を学びました。

昨年の七月には裏千家学校茶道研修会にも参加し、中嶋そらさんが点前をし、他の学校の生徒とも交流を深めました。

●**渡邊愛楽(部長)** お点前の意味を理解し心を込めて物を扱い、茶道に励むことができました。日常でも姿勢などに気を付け、相手や茶

道以外の物に対しても感謝の心を忘れないようにしたいと思います。

●**大羽朱音** お茶を上手に点でて褒められ、皆にも親切に教えていただき、もっとお茶を習っていきたいと思います。

●**小川夢愛** お茶を通して人と人とのつながりを感じ、礼儀が今までよりも変わったと思います。あいさつや人への接し方を大切に生活していきたいと思います。

●**河合ことほ** 年一回のお茶会は特別感があります。和菓子も意味や季節を表現していたので身の回りの細かな事にも目を向けたいです。茶道具の扱い方や人への礼儀など生活で活用したいと思います。

●**小林遥** 思いやりを何よりも大切にする茶道は素敵です。真、行、草の挨拶ひとつでこんなに印象が変わると驚き、日常でもするようになりました。和敬清寂を思い出し素敵な人になりたいと思います。

●**知田蓮花** 季節の菓子や花、お茶碗を知り日本の伝統や茶道の深さを感じました。人の話を聞く姿勢やお礼を忘れないなど意識できるようにになり、失礼がないように行動していきたいと思います。

●**中嶋そら** 和菓子やお茶に興味を持ち家でも茶道に触れ、思いやりや感謝などは日常も意識するようになりました。学んだお茶の基本を高校などで生かし、お茶会の機会があれば参加したいと思います。

(聞き手 茶道指導者 渡邊 宗澄)



## 剣詩舞渥美 — 高瀬 葵

私は去年の十一月から踊りの詩舞を習い始めました。私の姉が何年も詩舞をやっていた。「あーちゃんもそろそろ詩舞をやったら？」と誘われたのでやることにしました。始めは歩き方からでした。腰を落として足をすりすり歩きますが、それはうまくできるようになりませんでした。次は、お扇子を持って曲にあわせて踊らなきゃいけないのですが、なかなかうまく体が動きません。先生が、体の向きを教えてください、おへそは斜め」とか、「ゆっくり動く」とかわかりやすく言ってくれます。

夏の大会に出ることが決まった時、「きんちょうするからイヤだな」と思いましたが、姉と豊橋の子供達と踊るので、頑張りました。今は試験に向けて頑張っています。「富士山」という曲で踊ります。最後の回るところと、足を後ろに引くところがむつかしくてまぢがえやすいので、不安です。私は、舞台上に立つのは苦手だけど、ばあばや家の人達がよるこんでくれるので、これからも詩舞を頑張りたいです。



発行所 / 田原市文化協会事務局  
〒441-3421 田原市田原町汐見5番地  
(田原文化会館内) TEL(0531)22-6063  
発行人 / 山本達夫 印刷所 / 共和印刷㈱

田原市文化協会  
ホームページ  
https://taharabunka.com



田原市文化協会

検索

### 令和6年度

- 6月29日 渥美半島万葉の会 万葉講座
- 6月30日 ☆ゴールデン☆スター☆ 発表会
- 7月7日 県文連東三河部芸能大会(新城) 恵勢会
- 7月9日~15日 田原絵画クラブ 絵画展
- 7月20日 「たはら文化」145号発行
- 7月21日 恵勢会 ゆかた会
- 9月15日 田原市吹奏楽団 定期演奏会

- 11月1日~3日 文化祭 田原会場
- 11月2日 市民茶会 池ノ原会館
- 11月2日・3日 文化祭 渥美会場
- 11月10日 歌謡クラブ歌楽会 うた祭り
- 11月12日~24日 渥美窯陶友会 作品展
- 11月19日~24日 東三河写真倶楽部 写真展
- 11月20日 一日研修視察(名古屋)
- 11月24日 田原混声合唱団 家庭の日コンサート
- 12月7日・8日 劇団タハラジャ 定期公演

### 文協活動メモ